

産教連通信

技術教育と家庭科教育のニューズレター

産業教育研究連盟発行
http://www.sankyoren.com

目次

□ 初秋開催となった今年の全国研究会終わる	1
□ 全国研究会報告1：まとめの会	2
□ 全国研究会報告2：夕食・交流会	3
□ エッセイ「ユニバーサルデザインの落語絵本」	坂上美樹 4
□ 連載「農園だより(67)」	赤木俊雄 6
□ 連盟総会報告・常任委員会報告	8
□ 会員からの便り紹介	9
□ 編集部ならびに事務局から	12

□ 初秋開催となった今年の全国研究会終わる

近年、「猛暑」、「酷暑」、「危険な暑さ」などという文言が夏の時季の新聞記事の見出しに登場する場面が格段に増えています。最近では、夏場にはこの程度の暑さは当たり前になりつつあります。そして、9月に入っても真夏とさほど変わらない暑さが続く、14日、15日の両日、今年の全国研究会が実施されました。9月開催ははじめての試みでしたが、全国各地から研修センターに集まった仲間たちが熱い議論を繰り広げました。今秋の研究会をこの会場に決める段階ではエアコンは未設置とのことでしたが、実施当日には設置済みで、空調の利いた快適な会場で研究会を進めることができました。

今回の会場は研修センターだったので、通常の旅館やホテルとは異なり、食材の準備からその調理や配膳・片づけまで、すべて参加者が協力して行う必要がありました。また、宿泊用の部屋の寝具類のセットや片づけも参加者のセルフサービスとなっていました。そのため、「同じ釜の飯を食う」ではないですが、参加者同士の絆がさらに深まったとも思えます。

研究会一日目の9月14日午後の討議を研究会Ⅰ、二日目の9月15日午前の討議を研究会Ⅱと表記することにし、研究会の様子を本号と次号(2025年1月20日発行予定)の2回に分けて紹介します。

いつまでも続けたいアットホームな雰囲気の研究會

…1 はじめに

新型コロナウイルスについては時折ニュースで取り上げられる程度で、ワクチン接種の効果もあって、その感染者数も減ってきているようである。このような理由から、今年の全国研究會も対面形式で実施された。ただ例年とは異なったのが初秋の9月開催であった点である。外は真夏並みの暑さであったが、会場内はエアコンが効いていて快適であった。

今回の研究會では、学校教育の本質をついた問題提起、学習指導要領および検定教科書の内容に関係した問題点の指摘、技術・家庭科の授業実践に基づいた問題提起が6人の参加者からなされ、討議を進めた。

…2 時間の過ぎるのも忘れて討議に集中した参加者

研究討議の時間を十分にとつたため、まとめの会はごく短時間で済ませることになった。今年の研究會の締めくくりとして、二人の方に参加してみたの感想を述べてもらった。一人は学生の田原茅裕さんで、もう一人は現職の技術科教員の高岡寛樹氏である。

なお、研究會参加者に渡された資料の中に、日本産業技術教育学会が出した要望書に関するものがあつたので、簡単に触れておきたい。次の学習指導要領改訂に向けた本格的な議論が、今年中にも中央教育審議会で始まる。それに先立ち、前述の学会が中学校技術・家庭科技術分野を再編し、新教科「テクノロジー科」(仮称)に転換・拡充するなど、あわせて3点の要望を出したとのことである。この要望書の内容について

は、いずれ検討が必要になるだろう。

「今回、はじめて初秋の9月に実施してみた。来年の実施時期と開催場所については、近く行く予定の常任委員会で、今年の反省点も踏まえたいので検討を進めていきたい」との話があり、2日間の研究會の幕を閉じた。

(文責・編集部)



研究會討議風景

□ アットホームな雰囲気夕食・交流会と朝食風景



夕食・交流会風景(1)



夕食・交流会風景(2)



夕食・交流会風景(3)

本年の全国研究会は一泊二日の日程で実施されたのですが、宿泊や食事の可能な研修センターを利用しました。したがって、ふつうのホテルや旅館などとは異なり、会場設営から湯茶の準備・片づけ、部屋の清掃や整理・整頓などの細々したことまで、すべて参加者の手で行わなければなりません。また、食事についても、食材の調達から始まり、調理・配膳・片づけに至るまで、そのすべてが参加者に委ねられていました。それでも、和気藹々と作業をする参加者の姿が見られました。

夕食は、テーブルを囲んで、和やかな雰囲気の中で取ることができました。各種のアルコール飲料もテーブル上に並び、参加者の好みに応じて味わいながら、食事と歓談を重ねていました。お腹もかなりいっぱいになってきたところで、参加者一人ひとりが自身の近況や今後の抱負などを一言ずつ言い合いました。談笑のひとつときは瞬く間に過ぎて、会のお開きの時間が近づき、まだ語らいが足りない参加者の席だけ残し、後片づけに取りかかったのです。

前日の交流会の余韻も残るなか、朝食の時間を迎え、参加者同士が協力し合って配膳作業を進め、準備が整った席から食事となりました。朝食場所はその後に研究会場として使用されるため、後片づけも参加者同士が協力

して、手際よく進められました。

(文責・編集部)



朝食風景(1)



朝食風景(2)

■ 落語の絵本を作りたい

この企画のはじまりは、落語家の春風亭昇吉師匠しゅんぷうていしやうきちです。昇吉さんが大学生の頃、盲学校に落語のボランティアに行ったとき、目の見えない子どもたちに「おもしろかった」とか「声が聞きやすかった」と言われ、涙が出るほどうれしい気持ちになったそうです。音を頼りに生きている子どもたちに、声がいいと言われたことで落語家になることを決めたそうですが、そんな体験がきっかけとなった企画です。

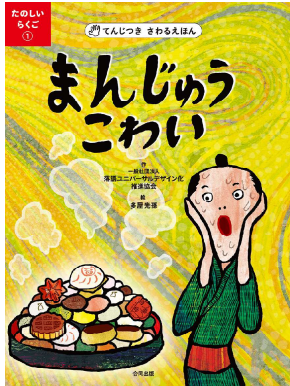


図1『まんじゅうこわい』の表紙

それから20年間、昇吉さんは視覚障害者向けの落語の絵本を作りたいと思い続け、ご縁があって、今年(2024年)の4月、小社から『てんじつき さわるえほん たのしいらくご① まんじゅうこわい』を刊行しました(図1)。文には点字をつけ、絵には凹凸をつけ(触図)、触れてわかるように印刷した「点字つき触る絵本」です。

■ 落語を絵本で楽しませたい

さて、落語は耳で聞いて、十分楽しめるものです。「カミシモを切る」と言って、話



図2 馬の絵が見えない図

し手が顔を左右に向き分けることによって、人物の演じ分けをします。視覚障害者は壁などへの音の反響の仕方によって、どちらを向いてしゃべっているのかわかるそうです。音から映像を想起したり、音から感情を読み取ったりする力は、正眼者せいがんしゃ*より長けているのかもしれませんが、だとしたら、なにも絵本で落語を楽しまなくても……、と思われるかもしれません。



図3 手で触れると馬の絵がわかる印刷

そこで、僭越ながら、この絵本にはもっとユニバーサルな仕掛けを施しました。図2をご覧ください。長屋の若いもんが集まって、それぞれの怖いもんを言い合うことになったのですが、ここでクイズです。「おれの 怖いもんは あしのはやい どうぶつで はなが ヒーヒー いってらんだ。うしろあしで けとばされると ふつとんじゃぞ」さて、この動物はなんでしょう? 簡単ですね! 答えは「馬」ですが、図2に馬の

絵はありません。実際は透明な特殊インクで馬が描かれていて、触って答える仕掛けになっています(図3)。

後半はいろいろなまんじゅうが出てきます。文を読んで、触図をさわって、楽しみながら読み進める仕掛けになっています。

「点字つき触る絵本」というと、目の不自由な子のためだけの本のように思うかもしれませんが、目の見えない子も見える子も、だれもが一緒に落語を、絵本を、楽しめるようにと考えました。耳で聞くだけではなく、本という実体があれば、大人も子どもも、目が見えない人も見える人もいっしょに、落語のおもしろさを追体験したり、学びを深めたりすることができます。

■ ユニバーサルデザインの絵本をめざす

点字や触図だけではなく、「まんじゅうこわい」に出てくるこわい生き物や、江戸時代の長屋を、触って楽しめるよう3Dプリンタで立体化できるようにもしました(図4)。「やたら足がいっぱいっている虫は?」「長屋ってどんな家?」「紅葉の形のまんじゅうは?」絵本の巻末に3Dプリンタ用のデータがダウンロードできるようになっています。感覚を研ぎ澄ませて、想像力を最大限に発揮して触ってみてください。つまり、この絵本はユニバーサルデザインをめざしたのです。



図4 3Dプリンタで立体化した生き物

ユニバーサルデザイン(Universal Design)は、障碍の有無や年齢、性別、言語、文化的背景などに関係なく、すべての人が使いやすく、安全に利用できるように設計されたデザインのことを指します。

■ 落語絵本で社会のバリアを取り払う

落語は、室町時代にお坊さんの説法からはじまりました。明治のはじめには落語を口演速記したものが新聞連載されます。1903年、三遊亭円遊が初のレコード録音をしました。関東大震災後の1925年にラジオ放送が、1953年にはテレビ放送が始まりました。そして、2020年のコロナ禍では、WEB配信が急速に進みました。落語は社会と技術とともに、柔軟な変化を続けています。

そもそも、落語は、そそっかしい、忘れっぽい、なまけ者、弱さ、欲深さなどもひっくるめ、すべて笑いで包みこむユニバーサルな世界です。柔軟な発想の落語絵本で、誰も排除しない、多様性を認め合う社会について考えてみるのもよいと思いませんか。世の中にはいろんな人がいて、ひとつの本で同じように楽しむことができるのだということを体験してみてくださいがあればありがたいです。

* 正眼者：眼の不自由な人を視覚障碍者という。正眼者は対義語。古くは晴眼者、晴眼者と言っていた。英語で sighted person。

■ 岡山空襲展示を見学して思うこと

……………2024年7月27日

岡山シティミュージアム(岡山市北区駅元町15-1)内にある岡山空襲展示室の見学に行ってきました。多くの見学者がいました。どんな展示があったのか、少し紹介します。



運動場に芋を植える岡山県女子師範学校生徒

1942年(昭和17)9月頃か 個人所蔵

戦時中の食料不足を少しでも軽減しようと、学校の運動場やあちこちの空地を借りて畑をつくり、野菜を育てることが行われていました。
 師範学校とは教育を専門とする学校です。岡山県女子師範学校は現在の市立中央中学校(北区豊山町)の場所にありましたが、空襲により校舎の大半を焼失しました。

左の写真は、1942(昭和17)年、岡山県女子師範学校の生徒たちが校庭で芋を作っている作業の様子を表現したものです。

私も、10年ほど前の現職の頃、生物育成の授業で生徒たちにこのような作業をさせていました。

また、左下の写真は岡山空襲で使用された焼夷弾です。

日本と比べ、アメリカは兵器を作る技術と産業力がありま

した。今考えると、無茶な戦争をしかけたものだと思います。

食べる物がないと人は生きていけません。つまり、人は生きるために食糧を作るのです。したがって、平和な時に食糧を準備しておくことが大切です。

何よりも今、大切なことは、戦争をさせないことではないでしょうか。

「戦争に行かない者が戦争をしたがる」。(大阪美術平和展で)



■ 里山づくり2年目の桜園の様子

……………2024年9月14日

桜を植樹して2年目の昨年(2023年)3月、河津桜と陽光桜が咲き始めました(編集部註:農園だより66を参照)。しかし、他の桜は咲きませんでした。根づいてはいますので、来年は咲くことでしょう。桜の根づきがよくて成長が早い場所は、山の頂上から5mほど下がった場所です。山の開発業者が重機を使って、生えていた松などの樹木を根こそぎ伐採してしまったので、頂上付近の土壌は水分が少ないため、咲かなかったのではないかと推察されます。

昨年、スズメバチが巣を作ったのですが、今年は幸いにして巣がなく、ほっとしています。ただ、油断は禁物で、常に気をつけることにしています。8月に日照りが続き、葉がしおれてきたので、水やりをしました。炎天下、ポリタンクで水を運ばねばなりません。桜園の管理の仕事には終わりがありません。

■ 里山の文化活動と今後へ向けての課題

……………2024年9月15日

最近では樹木を利用しなくなったので、人が山に入ることがめっきり少なくなりました。そのため、山の本々を無断で伐採するという事例が全国各地で発生しているようです。こうした乱開発が山全体に広がらないように、自分の山がどこにあるかを山の所有者に意識してもらうように絶えず心がけています。そのため、他の地域の方々にも来園してもらい、里山で楽しく遊んでもらう取り組みをしています。里山と郷土を知ってもらう桜園づくりというわけです。

里山の周辺には総合展示場コンベックス岡山や大規模な流通団地の岡山県総合流通センターなどが立ち並んでいます。また、近隣の開発や森林伐採などについても、絶えず気にかけています。

“倉敷里山の会”という名称の会を立ち上げ、私を中心となって活動を進めています。「平和があってこそ里山を楽しめる」「山は未来への贈り物、水田と山は恋人」ということを念頭に、桜園に常設の掲示板を設置し、この地域の歴史を紹介した掲示物を掲示したりということをやっています。また、桜の植樹に携わってくれた人々には、桜の成長の様子を定期的に知らせています。

「里山の会を立ち上げたものの、多くの会員が高齢のため、桜園の管理作業の計画作成が難しい。子どもたちが参加したくなるような企画の立案が大変である。私自身が自分の仕事をこなしながら会の仕事もやっているため、余裕がない」などの課題を抱えています。

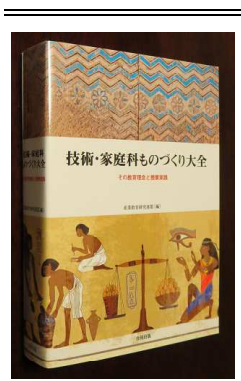
ただ、試行錯誤ではありましたが、2年間活動を続けてきて、新しい方々とも知り合いになることができました。あと2年もすれば、「どうぞ、桜園の桜を見に来てください」と胸を張って言えるようになるでしょう。楽しみながら現在の活動を続け、その日が来ることを待ちたいと思います。

『技術・家庭科ものづくり大全』が刊行されました

2021年8月、産教連編による『技術・家庭科ものづくり大全』が合同出版から刊行されました。70年にわたる産教連の研究と実践の活動の集大成ともいえるべき書籍で、A5判、656ページの大著(定価：本体3000円+税)です。

学校現場で技術教育・家庭科教育に直接携わる教員だけでなく、技術教育・家庭科教育に関する研究者やものづくりに関わりのある多くの方々が本書を手にすることを希望しています。

(編集部)



□ 連盟総会が行われました

研究会二日目の9月15日の最後に、連盟規約第6条に基づいて連盟総会が開催され、前年度活動報告・前年度会計決算報告ならびに同監査報告・次年度会計予算案が、いずれも原案どおり了承されました。

また、活動報告に関連して、次のような意見が出されました。「新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、東京サークルの定例研究会開催が中止され、そのまま現在に至っているのは残念でならない。再び開催できないか、その方策を模索しているところだ」「コロナ禍以降、会員数の減少とも相まって、活動自体を縮小することが提唱され、今に至っている。これから産教連の活動をどのようにしていくのか、真剣に考えていく必要がある」「会員の中の現職教員の数が少なくなっている現在、こうした教員と交流していくことで産教連の活動も活性化するはず」「現職を離れた会員は、自分の教育実践や教育に対する考えなどを書籍などの形にして、後輩たちのために遺しておくことも大事ではないか」。

□ 常任委員会が行われました

今秋の連盟総会を受け、9月下旬に常任委員会が行われました。この場で話し合われたことのなかから、いくつかをお知らせします。

*今年(2024年)および来年(2025年)の全国研究会について

- ・ 実行委員会に寄せられた意見・要望も参考にしながら、今年はじめて初秋の9月に実施してみたが、学期が始まってからの開催では、現職教員の参加はむずかしい。
- ・ 研究会が現在の参加者の規模とすれば、今年利用した研修センターは手頃な会場と言えるが、食事の面で一部の参加者に負担がかかり過ぎた。再び利用するならばこの点について工夫が必要である。

以上のような点も考慮しながら、一泊二日の日程での実施を考慮して準備を進めていく。ただ、現職教員の年代の新たな参加者を誘うには、初秋の開催は現実的に厳しいので、過去に実施してきている8月中の開催が望ましいと考えられる。そこで、この線で日程と場所の検討を進めていき、年明けの常任委員会で決定にもっていきたい。

*産教連通信について

本号の冒頭ページにもあるように、今年10月発行の本号では、交流会などの研究会の雰囲気や伝わるような記事を中心に紹介し、来年1月発行の次号では、研究討議の様子を中心に紹介するという紙面構成を考えている。

□ 会員からの便りを紹介します(1)—今秋の全国研究会を振り返って

9月中旬に実施された全国研究会に関して、産教連ネットに投稿されたものを再録しました。

研究会当日、会場がある松本市へ電車で行きました。途中の車内で生成 AI に関する資料に目を通しました。松本駅へ到着後、バスに乗り換え、会場近くのバス停で下車して歩き始めました。しかし、地図を見ても、人に聞いても、目的の場所がよくわかりません。使い方がよくわかっていないためか、スマホを見ても役に立ちません。そんなこんなで会場周辺を1時間近くさまよってしまいました。ようやく会場に到着すると、ちょうど鈴木賢治氏が話をされているところでした。

夕食と朝食は自炊です。はじめて参加された若い方は「温もりのある会の雰囲気がよかった」と、感想を述べていました。

最後に、自分自身の経験をもとに、産教連ネットを活用して、若い先生方に授業に役立つ“ネタ”を伝えるということと、産教連通信に掲載してもらうための原稿を書くということを確認しました。また、昨年からはじめていた桜園作りも継続していきます。
(岡山・赤木俊雄)

常にいろいろなことに関心を向けられている赤木さんの姿勢に感心いたします。先生の米に対する熱意には驚きますが、日本には米の他にも素晴らしいものがあります。そうしたさまざまなものにも目を向けてほしいです。
(神奈川・野本恵美子)

久しぶりの研究会参加で、頭を使いました。また、いろいろな考え方がることがよくわかりました。道徳の授業は押しつけられたものです。そのことをわかったうえで、道徳にならないように、教師は科学的なものの見方で日本の伝統を正しく子どもと考えることが大事です。技術科の授業で米作りをしたので、その後のまとめとして使える良い教材を探していたところ、たまたま見つけたのが今回の道徳の教科書に載っていた「日本のお米」という資料です。技術科の授業で、この資料を使って、道徳の教科書の後ろにある“考えてみよう”ということそのまま子どもに問いかけてみました。すると、それまでの子どもの感想とは違ったものが出てきました。教科書の編集者の意図するような答えです。ここが重要です。道徳の教科書は国の期待される人間作りのために書かれています。

週1時間の道徳の授業が技術・家庭科の授業に振り向けることができれば、もっと余裕のある楽しい授業ができるのではないかと思います。木の文化、和菓子の文化、伝統食の文化、畳の文化、縫いは人類の文化などの授業ができます。それこそ、産教連の出番です。
(岡山・赤木俊雄)

道徳教育については、その目的と枠組みと制度がそもそも問題であり、教材の良し悪しの議論は「重箱の隅」かもしれません。「良い教材なら道徳を承認するのか？」という問題になります。「良心の自由」が最も大切です。教科書内の資料にあった著作物の

文言を改変するなどということは言語道断な話で、ここに教科書検定の恐ろしい姿を見ることができます。また、改変に応じた著者にも疑問を感じました。

(新潟・鈴木賢治)

□ 会員からの便りを紹介します(2)―どうするこれからの情報教育

情報教育に関して、産教連ネット上でのやりとりについて再録しました。

今、学校現場で情報教育が実際にどのような形で行われているかを知りたいと思い、岡山県内の公立高校を訪ね、お話をうかがいました。

学習指導要領の改訂に伴って、すべての生徒が学ぶ「情報 I」が新設され、大学入学共通テストの出題科目の一つとなりました。この学校で使っている「情報 I」の教科書を見せていただきましたが、プログラミングに関する学習に多くのページが割かれていました。

この学校は8学級で、「情報 I」は2単位ですから、 $2 \times 8 = 16$ の16時間を非常勤講師の方が、4日間連続で午前中の4時間続けて教えているとのことでした。今年も県の高校「情報」の採用試験で「情報」の募集はなかったとのことでした。したがって、どの学校でも非常勤講師の方が授業をされています。4時間連続の授業では大変だろうと思います。

授業は、1クラス40人がパソコン室で行います。アシスタントが2人つくとのことで、中学校よりは条件がよいようです。ここにあるパソコンで成績管理もしているそうです。また、Google にもつながっています。高校のコンピュータは Google と Microsoft が情報を握っています。日本は Google と Microsoft に頭を押さえつけられ、情報を握られています。

パソコンは台湾製の BenQ です。今から30年前、中学校のパソコン導入に関しては国産を要求しましたが、現在は国産のパソコンが少ないようです。

私も「情報」の教科書を購入し、改めて勉強する予定です。(岡山・赤木俊雄)

赤木先生、いろいろと情報ありがとうございました。

現在、小中学校では、多くの学校でパソコンは撤去され、代わりに一人一端末でタブレットが貸与されています。

多くの場合、Google 社の Google Chrome を OS とするタブレット(メーカーとしては Lenovo など、中国製のタブレットの導入が多いでしょうか)または Apple 社の iPad が多いように思われます。

これらの導入は GIGA スクールプロジェクトによるところが大きいです。

しかし、プログラミングをする場合、タブレットよりもパソコンのほうが使い勝手がよいので、全国の各学校でプログラミングの授業はいろいろと四苦八苦しているのが現状ではないでしょうか。(新潟・後藤直)

月刊誌『技術教室』は技術教育・家庭科教育の授業実践の宝庫

産教連の会員ならばご存じと思いますが、『技術教育』『技術教室』は産教連のホームページ上で公開されています。これは、技術教育・家庭科教育の発展に資する目的で、これらの雑誌の発行社である国土社、民衆社、農山漁村文化協会のご理解を得て実施しているもので、ダウンロードが可能となっています。

過日、これを利用した先生から、次のようなお礼のお便りをいただきました。

はじめまして。私は、現在、埼玉県内の中学校で技術科の教員をしております。この度、『技術教育』『技術教室』の存在を知り、ダウンロードし保存させていただいております。大変貴重な資料をご提供いただき、心よりお礼申し上げます。過去の教育実践・教育思想・教育政策を知るうえで、貴重な資料であることは間違いありません。技術科教員にとって、まさに宝の山です。日々、勉強させていただくとともに、ここから技術科の未来のヒントをつかみ、子どもに還元していきたいと思っております。返す返すも貴重な資料をご提供いただき、ありがとうございます。

技術教育・家庭科教育に関する唯一の月刊誌であった、前述の雑誌の存在をまだ知らないという方々に対して、広報活動をもっと進めていくことが大事だと思いました。
(編集部)

メーリングリストの積極的な活用を

会員の皆さん、メーリングリストの産教連ネットを活用していますか。今や、インターネットの利用は当たり前の時代になっています。「最近、図書館でこんな本を見つけましたが、ご存じでしたか?」「こんな情報を入手したのですが、どなたかもっと詳しいことを知りませんか?」などということを産教連ネットへ載せることで、情報交換の輪が広がるのがたびたびあります。

産教連ネットに情報を発信することが活用の第一歩となります。この産教連通信でも、産教連ネットへ発信された情報を編集し直し、「会員からの便りを紹介します」というタイトルで、随時、紹介していますので、参考にしてみてください。

産教連ネットへの登録手続きについては、まずは事務局へご連絡ください。連絡先は本号の最終ページに記載されています。
(編集部)

□ 編集部ならびに事務局から

産教連通信の執筆要項を産教連のホームページ上で公開しています。この規定に沿って、原稿をお願いします。原稿の送付先は編集部(下記参照)です。会員の皆さんの寄稿を待ち望んでいます。

さて、コロナ禍のなか、2021年夏に開催された連盟総会で、今後の活動規模を縮小することが決まり、実行に移されています。皆さんがご覧になられているこの産教連通信も、それまでの隔月刊(奇数月発行の年6回)から季刊(年4回の発行)に変更され、すでに3年あまりが経過しています。

ところで、事務局や財政部などから出された郵便物が宛所不明で戻ってきってしまうことがたびたびあります。それが日常の活動に関する重要な文書だったりすると、会員の皆さんにとっては不利益を被ることもあるかと思います。どうぞ、**人事異動や転居などで住所・電話(FAX)番号・勤務先などに変更があった場合には、お手数でも、すみやかに事務局(下記参照)までご連絡をお願いします。また、メールアドレスの変更についても、同様にご連絡くださるとありがたいです。**

編集後記

今年の夏の暑さは異常とも思われるほどで、暑さに関するいくつかの観測記録が塗り替えられたとの報道もなされていました。この暑さが続く9月中旬、今年の全国研究会が長野県松本市で行われました。その研究会の様子のごく一部を本号で紹介しました。本通信の発行時期の関係から、研究会報告の大部分は次号掲載となってしまいましたので、ご承知おきください。

さて、本号の11ページ(今、ご覧のページの前のページです)に、産教連のホームページにアクセスして、機関誌の『技術教育』『技術教室』をダウンロードして活用しているという方からのお礼のメールを紹介しています。大変な手間ひまをかけてアップロードした甲斐があったと言えます。さらに活用の輪が広がるよう、工夫していきたいと思っています。(金子政彦)

産教連通信 No.71 (通巻 No.252)

2024年10月20日発行

発行者 産業教育研究連盟

編集部 金子政彦 〒247-0008 神奈川県横浜市栄区本郷台5-19-13
☎045-895-0241 E-mail mmkaneko@yk.rim.or.jp

事務局 野本恵美子 〒224-0006 神奈川県横浜市都筑区荏田東4-37-21
☎045-942-0930

財政部 藤木 勝 郵便振替 00120-8-13680 産業教育研究連盟財政部